

1 自己評価書

教育目標	笑顔で力いっぱい取り組む三間の子を育てる					
基本方針	体験・感動・発見・交流 ささまざまな人との「かかわり」と「つながり」					
本年度重点目標	1 社会総がかりで取り組む教育の推進 2 安全・安心な教育環境の整備 3 確かな学力を育てる教育の推進 4 互いの人権を尊重する教育の推進と児童の健全育成 5 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B C	C
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C B	B
			1人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B	B
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	D C C	C
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
	(成果と課題) ・ EILSやeスタの活用を積極的に行った。また、iPadの活用を進められた。iPadの活用は、児童に支援しなくても学習を進められるようになってきた。 ・ 教科によって偏りはあったが、単元を通した見通しを持って授業が行えた。どの教科も同じようにしていきたい。 ・ 児童に「できる楽しさ」「分かる楽しさ」を味わわせられるように発問の内容等を意識して取り組めた。 ・ 総合的な学習の時間の取組を通して、地域の人との関わりを深めたり、地域に対する知識や誇りを高めたりするきっかけにすることができた。 ・ 自主学習に関しては、十分なものになっていない。まとめ方や内容など学年にふさわしいものにしていきたい。					
	(改善策等) ・ 学期末にeライブラリを活用したことで、学習内容の定着に効果があった。今後も効果的な活用を考えていきたい。 ・ 読書時間を確保できているが、意欲が高まるような取組になっていない。児童の読書活動を把握し、意欲が高まるような取組をしていくことで来年度につなげていきたい。 ・ 家庭学習の内容を見通しを持って出題することで、学習が完結するようにしていきたい。また、自主学習の内容が向上するように、良い取組を称賛したり、紹介したりするなどの働き掛けをしていきたい。					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	D B B	C
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B D	C
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B D	C
	③	基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	D B C	C
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的に行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	B B	B
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	B B	
	(成果と課題) ・ 児童の変化に気付けるように、児童のそばでたくさんの声掛けを心掛けた。 ・ 学級全体で良いことを称賛することで、自己肯定感が高まった。また、1日の終わりに「友達の良いところ探し」を行うことでいろいろな発表があり、児童が自信を持つ様子が見られた。 ・ 毎月の学校生活に関するアンケートを蓄積することで、児童の変化に気付くことができた。 ・ 「いじめ」「不登校」に関しては早期対応が必要になるため、素早い共通理解が必要である。					
	(改善策等) ・ 学級で起こった事項に関しては、家庭連絡をし、家庭と連携しながら解決に当たっていききたい。詳しい連絡となるよう、忙しさはあるが児童が登校してくる時間から児童の様子を見届けるなど、目を離さない工夫をする。 ・ 月1回の生徒指導に関する情報共有の時間を確保することができ、教職員間の共通理解が図れた。また、早期対応が必要な事項についても協力体制の下対応ができるようになっていきたい。 ・ 児童の規範意識が低下してきている。教職員が共通理解し、実践する。また、児童や保護者への啓発も確実にやっていきたい。					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C B	C
	②	働きやすい環境づくり 新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間の使い方を工夫した。</li> <li>・ 困りごとは相談しながら解決に当たった。</li> <li>・ 課外体育は、これまでのやり方を見直し、無理のない運営が行えた。しかし、教職員や保護者への事前連絡が不十分であったり、遅かったりした。</li> <li>・ 教育活動の精選については、実施の必要性等を事前に十分協議する必要がある。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2学期になり、養護教諭が不在となった。業務を分担したり、サポートしていただいたりして運営していった。各業務に関してはプラスαの仕事となっているため、他の教員は締切りを守るなどそれぞれがやれることをきちんとする必要がある。</li> <li>・ 教育課程の編成時に、本当に必要かを十分に協議し、精選していく。また、知らせるべき内容は保護者へ早めに説明する。</li> </ul>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	C
			・教師アンケート	C	
			・保護者アンケート	C	
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	B		
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	C	
		・保護者アンケート	C		
		・地域アンケート	C		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて、保護者と顔を合わせて話をしたり、電話で子どもの様子を伝えたりすることができた。</li> <li>・ 学校運営協議会への参加に消極的であった。</li> <li>・ 学校だよりやホームページを利用して、外部との教育活動が発信できた。</li> <li>・ 来校者に対して丁寧な対応ができた。</li> <li>・ 学校運営協議会での話し合いは、以前と比べるとできるようになっている。しかし、数分間の話し合いでは、他のグループで出た話し合いの内容はよく分からない部分がある。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校での様子を伝えられるように学校だよりや学級通信の発行回数を増やしたり、記載内容を検討したりしていきたい。</li> <li>・ ホームページで学校生活の様子を知らせていきたい。</li> <li>・ 来校者や訪問客への対応は、気付いた職員が積極的に声を掛けできているので継続していく。</li> <li>・ 年間5回しかない学校運営協議会に教職員も積極的に参加し、自分事として捉えるようにしたい。学校運営協議会で教えていただいた「地域の教育力」の活用に取り組んでいく。</li> <li>・ 学校運営協議会での熟議の仕方は、今後の課題である。意見を出していただけるようになった分、委員全員で共有できる方法を検討していきたい。</li> </ul>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満